

2019 年度韓国留学体験レポート

新潟国際情報大学
国際学部国際文化学科
21018049 眞田武尊

今回の 4 か月間の留学生活から学んだこと、感じたことを大きく 3 つに分けてここに記していこうと思う。

まず初めに、学習面についてである。留学するうえで私が一番不安だったのが学習についてだった。自分はこのレベルの語学力で授業についていけるのかと、毎日不安に思っていた。しかし、この不安は留学生活が始まってあっさりと解決した。なぜなら、慶熙大学の先生方は皆優しく、丁寧に指導してくださったからだ。間違えたところは優しく指摘して、その度に「間違えても大丈夫」と声をかけてくださった。そのため、自信を失わずに勉強を続けることができた。また、日本語が話せる先生がいたおかげで普段の生活で困ったときに相談することもできた。常に先生方に支えられて助けられていたからこそ、良い留学生活になったと感じた。

次に、生活面についてだ。大きくこれが違うということはないが、やはり慣れるまでは大変だった。毎朝同じ時間に授業が始まり夕方まで授業を受けて、帰ったら課題・予習をするという毎日を過ごし最初は何時間寝ても疲れが取れなかった。しかし、2 週間ほど経てばその生活リズムにも慣れ、時間を有効的に使って過ごすことができた。食生活については、ほとんど外食だった。出費は大きかったが、その分さまざまな韓国料理を食べることができたので良かった。また、外食で注文する際に店員の方の韓国語が初めは分からなかったが、だんだんと聞き取れるようになっていく変化を感じられたので自信になった。天候については、韓国の冬は日本とは比べ物にならないと覚悟していたが、想像以上だった。体に突き刺さるような寒さが印象に残っている。だが、天気は晴れの日がほとんどだったため新潟よりも過ごしやすく休日などは友人とよく出かけていた。ソウルは交通の便が良く地下鉄に乗ればいろいろな場所へ簡単にアクセスできる。出先での出会いや発見から学んだことも多くあったため、いろいろな所に行ってよかったと思っている。

最後に、対人関係についてだ。留学先では nuis の学生と同じ寮で生活し、同じ学校に通っていたため当然彼らと一緒にいた時間が一番長かった。今まで話したことがなかった人とも話せたり、以前よりも仲良くなれたり素晴らしい人間関係を築けたと思う。さらにお互いで助け合いながら、協力し合いながら留学生活を送り、皆で無事に留学生活を終えられたので達成感を感じた。この留学で得たこと、学んだことは今後の私の人生においてとても重要なことだと思うので、これを無駄にせずこれからも日々精進しようと思う。